



写真 / 60名の参加者を魅了した演奏会風景



写真上 / 大阪在住のアコーディオン奏者の松原智美さん。

第23回文化サロンのピアソン クラシックアコーディオンコンサート終了!

今回のコンサートには、奏者の母親和子さんも来られ、懐かしい故郷の知人たちとの交流も深めていました。

このコンサートは、大阪でピアソンのホームページを見た智美さんが、記念館で時々コンサートが開催されていることを知り、夏の休暇を母親の故郷で過ごす計画があった事もあり、急遽開催する運びとなりました。活躍している現役奏者の演奏を聴ける幸運なコンサートとなりました。

8月17日土曜日、アコーディオン奏者松原智美さんのお母さんが北見出身であることからの縁で、今回初めて故郷でのコンサートが開催されました。

グリーグの「夏の夕べ」やヨハン・シュトラウス2世の「美しき青きドナウ」などを演奏。深みのある音色が、ピアソン記念館内に響き渡りました。松原さんは、曲目の合間に、クラシックアコーディオンの特色や仕組みについても解説。和音の設定なども実演。

普段、あまりクラシックアコーディオン演奏を聴くことのなかった鑑賞者も、その魅力の虜となったようでした。



第26回文化サロンのピアソン

講習会

～クリスマスリースを作ってみよう～

- ◎ 開催日時 : 2019年11月24日(日)午前の部 10時～11時30分 (10名)
- ◎ 午前の部 13時～14時30分 (10名)
- ◎ 開催場所 : ピアソン記念館2階 北見市幸町7丁目4番28号
- ◎ 講師 : 増井小夜子、小林清美
- ◎ 参加料 : 1,200円(材料費代)。電話にて予約受付(先着20名で切)

◎問い合わせ : NPO 法人ピアソン会 (電話 0157-31-1215)



『クラシックギターの名曲を集めて』 『クラシックギターの夕べ』終了



9月28日土曜日午後5時から、第25回文化サロンdeピアノンのコンサートとして開催されました。46名の参加者は、約1時間の演奏に聞き入っていました。

限られた時間の演奏会でしたので、約10曲のギターの名曲を集めた曲目でしたが、アンコール演奏には、映画「禁じられた遊び」で広く知られた「愛のロマンス」を演奏してくださいました。この曲は、スペインの民謡が起源とされていますが、映画で演奏していたナルシソ・イエベスの編曲が有名になっていくようです。クラシックギターの弦の音と、ピアノの雰囲気絶妙に融合し、癒しの時間となりました。



ピアノンと関連する

映画『塩狩峠』で学ぶ！終了

三浦綾子の小説を映画化した「塩狩峠」の主人公のモデルとなった長野政雄は、ピアノン夫妻と親交の深い方でした。それらの関係を知るための映画会を開催しました。

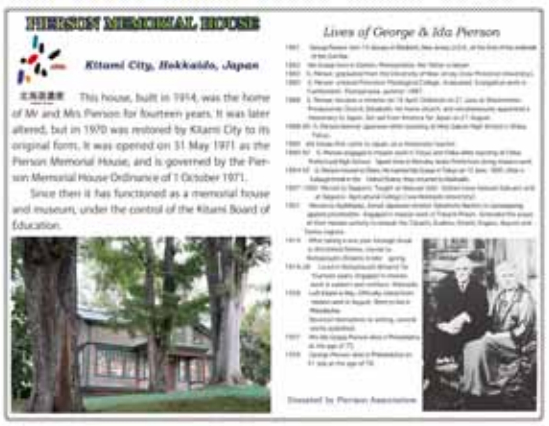
9月7日土曜日の夕方5時からの上映で、約21名の参加がありました。講師の中山理事がまとめたピアノンと長野政雄に関するレジュメなどで解説があり、二人の意外な接点に、参加者は驚いていました。

エリザベス市の図書館へ ピアノン夫妻の英文資料を寄贈

7月に、エリザベス市訪問団よりピアノン記念館に記念品をいただいたお礼として、ピアノン会より、エリザベス市民へのお土産として、ピアノン夫妻が日本で40年の宣教活動を通して英文で書かれた書籍等の電子資料を準備しました。

一世紀前日本での活動を、現代のエリザベス市民にも知ることのできる資料を提供したいとの思いからです。

この資料により、ピアノン夫妻のことをより知っていただけるようになると思います。左の表示板は、図書館で資料所蔵表示するもので、真鍮エッジング加工した表示板となります。



写真／図書館に表示する真鍮プレート

〜ピアソン会顧問 G・ハード氏からの近況報告〜

私は日本から一年間も離れているのは長過ぎると感じていました。それで、私は今年11月に再び北海道に旅行するための予約をしました。11月4日月曜日に千歳に到着し、12月9日月曜日にはニュージーランドに戻ります。

11月18日から25日に北見訪問を考えていますが、まだ確定していません。その時に北見の友人たちに会える機会があることを大いに願っています。よろしくお願いします、

グラハム ハード

〜来館者からの寄付金がありました！〜

9月25日に来館された、東海大学工学部講師高橋様より、「ピアソン記念館の活動に使ってください」と、一万円の寄付金をいただきました。記念館の展示内容や、ピアソン夫妻の活動に大変感銘を受けたから、とのことでしたが、本当にありがとうございました。

本年は、ピアソン氏の故郷エリザベス市との姉妹都市提携50周年という記念年でもあることから、いろいろと館の運営にも臨時経費がかかっており、大変ありがたい寄付金でした。有効に使わせていただきたいと思います。

事務局長

姉妹都市提携50周年記念公式訪問団の手作りお土産を製作中！

10月20日からエリザベス市を訪問する公式訪問団一員として、ピアソン会からハーブ部会長の長南幸子が参加します。エリザベス市への皆様に差し上げるお土産を「ハーブ部会」で作成しています。押し花や香り袋、着物地での匂い袋、などです。



写真／ハーブ部会の手作り作業



写真上：ピアソン記念館を描いた作品が、大阪市長長を受賞したと奈良在住山田圭子さんの手紙と写真です。

「ピアソン記念館」に行かせて頂いた、奈良在住の山田圭子（76歳）と申します。その節は、御親切に案内をしていただき、感謝しております。

息子が、縁あって北見の大学に行き、そのままその地に家族をもち住んでおりますので、今まで何度も北見には行かせていただいておりますが、3年前たまたま観光協会のパンフレットを見て、「ピアソン記念館」の歴史と長く北見の街を守っているような美しい建物に心を魅かれ写真を撮って帰り、油絵にしました。

絵の先生の勧めにより、大阪の美術展に出展し、幸運にも「大阪市長賞」をいただきました。絵の仲間たちそして見に来ていただいた方々に、遠い北海道に思いを馳せとても興味をもっていただきました。7月そちらに伺った際、差し出がましいとは思いますが、その話をさせて頂いたところ、「ぜひ絵を見せてください」とおっしゃっていただきました。私の北海道の印象として白樺の木にしたり、実際の風景とは多少違うところもありますが、一枚の絵画として観て頂ければ嬉しいですね。遠く離れた奈良にも、「ピアソン記念館」のファンがいるということ、絵の写真を送らせて頂きます。

お声をかけて頂きましたことに、心より感謝を申し上げます。皆さまのお幸せをお祈りいたします。

素敵な来館者！



右の写真は、今年の夏休みピアソンの庭で絵を描いた、東小学校2年川口真実佳さんの写真です。

「絵が出来上がったら一度見せてね」と、声をかけていたところ、先日写真を持参してください、「北海道建築士会北見支部の子ども絵画コンクールで『最優秀賞』を受賞しました」との嬉しい報告がありました。

「会報で紹介してもよろしいですか？」との申し出に、本人・母親の了解がありましたので、ここに掲載いたしました。今後とも素晴らしい絵を描き続けてください！

瞳のことなら、よっしーへ!!

あふあふのね、種類あふあふ、お気に入りが見つかります。サングラス、アイファッション用品、おがねの修理も承っています。

よっしーのね、よっしーのね、よっしーのね

よっしーのね、よっしーのね、よっしーのね

〒090-0043 北見市北三津西3丁目
TEL:0157-57-3664
定休日/毎週木曜日
営業時間/10:00~19:00

ピアノン夫妻資料収集記 (8)

ピアノン会理事 玉置 義弘

② ウォルター

(Walter Ignatius Goepf 1879.5. ~ 1908.11.30) 享年29歳



⑤ ハロルド
(Harold A Goepf 1886.2.25 ~ 1971.9.28) 享年85歳

姓	名	性別	年齢	出生地
Harold A Goepf	Harold	男性	85	New York
Walter I Goepf	Walter	男性	27	New York
Arthur A Goepf	Arthur	男性	25	New York
Harold A Goepf	Harold	男性	24	New York

⑥ メイベル
(Mabelle M Goepf 1888.2.9 ~ 1967.8.17) 享年85歳



アイダ・ゲップの実際の2人の弟フイリップ、マックスとは違って、ごく普通に市民生活を送ったようで、エセルはブレイスという商人と結婚し、ウォルターとハロルドの職業は分かりませんが、アルフレッドは電気技師、アーサーは支配人となっており、メイベルは新聞の死亡記事によれば、海員関係の事務所で経理の仕事をしていました。また彼女は未婚で遺族は兄のハロルドと甥と書かれています。

のフイリップと葬られています。もしかすると、晩年にキャサリンと離婚したとも考えられますが、その裏付けとなるものは見つかっていません。今後もまだ資料が見つかる可能性はありますので、ジグソーパズルのピースがびつたりはまるように、アイダ・ゲップの家系図もすっきりする日が来るかもしれません。

※ハロルドの写真を見つけることはできませんでしたが、国勢調査のデータがありましたので掲載します。

③ アルフレッド

(Alfred Joseph Goepf 1880.5.17 ~ 1913.5.8) 享年33歳



この弟妹はゲップ家の国勢調査の原本から見つけたのですが、不思議な事に、或るサイトのゲップ家の家系図には、アルフレッドの母親をマーサ、キャサリンのどちらにもせず、父親チャールズの名前だけ書いています。またハロルドも掲載していません。この弟妹は全員ニューヨーク生まれになっていますので、父親のチャールズが弁護士か海事裁判所の判事時代の事です。

ところで、もう一つ不思議な事に、父親のチャールズは1907(明治40)年4月に亡くなっていますが、死亡記録では、死亡場所はフィラデルフィアになっており、職業欄は退職者。しかし結婚歴欄を見て驚きました。そこには「妻とは死別」と書いてありました。後妻のキャサリンは1934年に亡くなっていますので、この時点ではまだ健在です。1910年のゲップ家の国勢調査では家族の筆頭はキャサリンになっており、住所はニューヨークからカルフォルニアのサンフランシスコへ移っています。その後、アイダ・ゲップの異母兄弟たちは、ずっとカルフォルニアに住んでおり、墓もカルトリック墓地に葬られています。父親のチャールズはフィラデルフィアの墓地に先妻のマーサと息子

ピアノンの故郷エリザベス市(北見と姉妹都市)訪問団の歓迎行事の様子を前号でお伝えしましたが、10月20日に、北見市からエリザベス市への訪問団が出發します。ピアノン会から、エリザベス市民へ、ピアノン宣教師が日本で著した英文資料を寄贈する準備を進めています。

編集後記

北海道遺産協議会の(株)伊藤園「お茶で北海道を美しく」キャンペーンの助成を受けて実施された、コンサートと映画会が終了しました。伊藤園さま、ありがとうございました。ピアノン記念館の絵を描く人を二人紹介しました。素晴らしい絵です。

(理事兼事務局長) 伊藤 悟

アイダ・ゲップの母親マーサ (Martha Neal Cowpland Goepf) は1870年に亡くなり、父親チャールズ (Charles P.H.Goepf) はキャサリン (Katherine M. Kate* Silk* Goepf) と再婚します。そしてキャサリンとの間に、アイダ・ゲップにとつて4人の弟と2人の妹が生まれました。以下の通りです。

① エセル

(Ethel Reddington Goepf Place 1877.9.21 ~ 1919.8.4) 享年42歳



④ アーサー

(Arthur Andrew Goepf 1884.6.4 ~ 1965.5.20) 享年81歳

